

## 2023 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 東京都市大学等々力高等学校 ] 担当教諭名 [ 藤原 夏希 ] ( 1年3組 41名 )


相手国・地域 [ ベルギー ]

海外学校名 [ GO! Busleyden Atheneum Pitzemburg ] 担当教諭名 [ Eef Haezebrouck / Katrien Petit ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な探求の時間	アートマイル国際協働学習	10
	学級活動(LHR)	アートマイル国際協働学習	10

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	To realize that we humans are doing bad things to the ocean, and we can also do something good for the ocean in the future.
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	We speak on behalf of the next generation, our sons and our daughters, their children to come. Fish and the oceans are polluted and poisoned by our tankers, our trash, our consumption, our banks and investments. People and governments of our precious present world: “For once forget how much money is in a million, please become a conscious consumer, our world and sea still have to last for an eternity”.
	

### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
環境学習をもとに生徒の日頃の行動に大きく変化が見られたこと。ごみの分別を意識するようになったり、環境問題に関するニュースに関心を寄せてくれるようになった。また、プレゼンを何度も繰り返すことで、表現力が磨かれたと感じている。	ベルギーとの時差や学校のスケジュールの違いを埋めることができなかった。Zoomなどを利用してお互いの学校のことや考えをもっと共有させ、国際交流につなげていきたい。

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
当初ベルギーの相手校から送られてきた、「平和と海」に関する学習では、高校生であっても社会情勢を理解しようと熱心な関心を寄せていることに驚いていた。ベルギーとやり取りした際に、作成した資料に鋭い質問を寄せてくれていて、レベルの高さに驚いていた。	ベルギーの相手校は、知識を生徒に吸収してもらうだけでなく、学んだことを学校外に発信していくことを非常に重視している印象を受けた。そのような姿勢に感化され、本校でも知識伝達のみにとどまらず、ポスターや動画作成に取り組んだ。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	4月 ～ 9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsとは</li> <li>・海洋汚染と現在行われている対策</li> <li>・海と平和の関係性</li> <li>・日本の海洋政策</li> <li>・海の保全とプラスチック</li> </ul>	環境問題については、中3次に水俣病について学習していたため、さらに理解を深化させることができた。海と平和の関係性は、社会的なテーマで難しく感じているようだった。	探求 LHR
共有 相手と意見交換	4月 ～ 9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州の平和と命の旅を振り返る</li> <li>・上記調べ学習の内容を共有</li> </ul>	調べた内容を英語にしていけるのは生徒にとって大変な作業であったが、帰国生に任せるのではなく、分担して作業に取り組むことができていた。	探求 LHR
融合 メッセージ作成	11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の洗い出し</li> <li>・どのような未来を創りたいか議論</li> </ul>	壁画制作担当の生徒で主に話し合った。生徒を集めて、どのような祈りを込めたいか聞いたところ、積極的に意見があがり、これまでの学習を自分事と捉えられていることが分かった。	探求 LHR
創造 壁画制作	11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壁画制作</li> <li>・ペットボトルの分別のポスター制作</li> <li>・班ごとに分かれて外部への発信活動</li> </ul>	以降、グループワークで活動を行った。班ごとに分かれてオリジナリティ溢れる方法で、楽しそうに海について学習した内容を発信した。	探求 LHR
評価 振り返り 自己評価	2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオ作成</li> </ul>	活動を通して感じたことを率直に描いてくれた。世界各国の取り組みというマクロの視点と、自分たちにできることは何かというミクロの視点を持つことができた。	探求 LHR

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つけたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化を理解する力	3	全体的に生徒同士で顔を合わせて交流することができたら、さらなる向上が見込めたと考えている。お互い相手校の海を取り巻く状況・文化には強く興味を持っていたと感じている。
主体的に考え行動する力	4	本活動を通して、先述の通り生徒の行動に大きく変化が見られた。教員が促さずとも、海のごみを拾いにいってくれたり、ごみを分別する機会を利用したりと、実践に移してくれていた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	ベルギーとのやり取りの際には、背景を理解すべく、客観的かつ論理的な質問をすることができた。また、班ごとにプレゼンテーションを行った際には、情報の選択を行うことができていた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	2	相手校とのスケジュールの違いを埋めることに苦戦した。相手校が作成したパワーポイントや、活動の内容には大きく刺激を受けることができていた。
想いを表現する力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	「過去」に海で起こった出来事、「未来」の海に望んでいることをよく考え、細かく描くことができた。手をモチーフにしたのは、未来は自分たちの手にかかっているというメッセージが込められている。